平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ２１１ ※記入不要	提案機関名	家畜病性鑑定所

要望問題　生菌製剤の消臭効果試験

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

【背景】

養豚農家や養鶏農家は、家畜の腸内細菌叢の安定化や糞尿の消臭効果をねらい生菌製剤を使用している。生菌製剤の病原細菌の定着防御効果については、多数報告があるが、糞尿の消臭効果については、いまだ未解明な部分が多い。

そこで、生菌製剤を使用することによる、家畜の糞尿の消臭効果を検討するとともに、家畜の糞尿の消臭に有効な生菌製剤を開発する。

【内容】

家畜への生菌製剤の給与試験及び消臭効果判定

【対象地域及び規模（面積、数量等）】

県下全域

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産研究所
部　　署：	畜産工学部

対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

畜産臭気の抑臭・消臭に関する試験（平成４～６年度）

都市型畜産環境保全に関する研究（平成８～16 年度）

対応の内容等

一般に生菌製剤による消臭効果は、腸内で有用菌が増え、悪臭の元になる腐敗物質を産出する有害菌が減少するためとされています。当所で平成４年～６年まで市販の消臭資材 15 種（内微生物資材 10 種）について、豚舎の臭気の抑臭・消臭に関する試験を行ったところ、効果があったのは漢方生薬抽出粕由来の消臭資材１種のみでした。また、この１種についても他県の試験では効果なしと判定されています。この他の当所で未試験の生菌製剤については、関係機関の協力を得て情報収集に努めたいと考えます。

また、豚、鶏で飼料栄養面を改善することにより悪臭物質を低減させる試験を、現在当所で実施していますので、参考にしてください。

なお、悪臭防止に有効な特定の微生物を同定、増殖し、家畜給与試験をして効果、安全性を確認するには膨大な労力及び設備がかかります。当所において生菌製剤の開発にいたるには、新しい設備、専属スタッフが必要となり、現状では本課題への対応も困難と考えます。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	